



それぞれの機能障害についての細かいこと

## 各論その1

(内部障害系：肢体不自由以外)



# 小腸機能障害

- ◆ 1) 小腸の障害像  
2) エネルギー補充の必要性  
の2つで等級認定する
- ◆ 1)、2)のすべての条件を満たす必要がある
  - ◆ より低い方の等級で認定する



# 小腸機能障害

- ◆ 1) 小腸の障害像
  - ◆ 小腸大量切除による残存空・回腸長の減少
    - ◆ 75cm未満(乳幼児期は30cm未満) 1級
    - ◆ 75cm以上、150cm未満 3級
    - ◆ 150cm以上(※大量切除とは見なされない) 4級
  - ◆ 小腸疾患による永続的な小腸機能の低下
    - ◆ 疾患名は等級認定に影響しない



# 小腸機能障害

- ◆ 2) エネルギー補充の必要性
  - ◆ 栄養維持が困難 【必須条件】
    - ◆ 栄養療法開始前に次のどちらかが認められる
      - ◆ 最近3ヶ月間の体重減少率が10%以上  
(15歳以下は身長・体重増加がみられないこと)
      - ◆ 血清アルブミン濃度が3.2g/dl以下
    - ◆ 既に栄養療法(中心静脈栄養、経腸栄養)を実施中



# 小腸機能障害

## ◆ 2) エネルギー補充の必要性

### ◆ 栄養療法を行う必要がある

- ◆ 1級 推定エネルギー必要量の60%以上を  
常時中心静脈栄養で補う
- ◆ 3級 推定エネルギー必要量の30%以上を  
常時中心静脈栄養で補う
- ◆ 4級 随時中心静脈栄養や経腸栄養で補う
  - ◆ 「随時」とは、6ヶ月間に4週間程度の頻度  
(≒月あたり4-5日、週あたり1日)



# 小腸機能障害

- ◆ 再認定は必須
  - ◆ 小腸大量切除(残存空・回腸長が150cm未満、すなわち1・3級相当)を除いて、3年後再認定を付することになっている
- ◆ 小腸切除・疾患以外は対象外
  - ◆ 嚥下障害による経腸栄養はもちろん、悪性腫瘍末期による悪液質も認定対象外である



# 小腸機能障害

---

- ◆ 小腸移植術後
  - ◆ 術後の抗免疫療法を継続実施している間は無条件で1級